

Lou Barlow

J Mascis

Murph



音が、巨大すぎた。

FREAK SCENE

The story of Dinosaur jr.

DIRECTED BY PHILIPP REICHENHEIM MUSIC BY DINOSAUR JR. PRODUCED BY STEPHAN HOLL, ANTOINETTE KÖSTER, PHILIPP REICHENHEIM COPRODUCED BY DINOSAUR JR. INC. / J MASCIS

WITH J MASCIS, LOU BARLOW, MURPH, KIM GORDON, HENRY ROLLINS, BOB MOULD, THURSTON MOORE AND JOHN AGNELLO, GEORGE BERZ, FRANK BLACK, CHARLES BRADLEY, BYRON COLEY, MATT DILLON, JON FETLER, MAURA JASPER, MEGAN JASPER, MIKE JOHNSON, RORY MASCIS, MIKE MASCIS, LUISA REICHENHEIM, LEE RANALDO, KEVIN SHIELDS, KURT VILE AND PHILIPP REICHENHEIM, STEPHAN HOLL, MARIO BERGMANNI CAMEOS: PHILIPP VIRUS, LEE RANALDO, PETER DOMSCH, LIVIANA DAVI, AND MANY MORE PHOTOS: ALBUM ARTWORKS: MAURA JASPER, JON FETLER, JENS JÜRGENSEN, JASON TALERMAN, ANGRY JOHNNY, MARIO SPUSTA, DANIEL RICHTER, AND MANY MORE ARCHIVAL RESEARCH: GREG DALTON-KAY, PHILIPP REICHENHEIM, AMY ABRAMS POST PRODUCTION / EDITORS: MARIO BERGMANN, PHILIPP VIRUS AUDIO POST PRODUCTION: MARIO BERGMANN DI FACILITY - THE POST REPUBLIC MANAGING DIRECTOR - MICHAEL REUTER, COLORIST - ARTEM STRETOVYCH, SOUNDDESIGNER / MIXER - PAUL RISCHER TITLEDISIGN & ARTWORK: MARIO LOMBARDO

DINOSAUR JR. MANAGEMENT BRIAN SCHWARTZ, AMY ABRAMS PRODUCTION SUPPORTED BY FILM- UND MEDIENSTIFTUNG NRW

RAPID EYE MOVIES



© 2020, BY RAPID EYE MOVIES / VIRUS FILMS / DINOSAUR JR. INC.

Die Staatsloge der Bundesregierung für Kultur und Medien

Film und Medien Stiftung NRW

ダイナソー Jr. / フリークシーン

2020年 | 82分 | ドイツ = アメリカ合作 | 原題: FREAKSCENE the story of Dinosaur Jr. キングレコード提供 ビーズインターナショナル配給

バンドとその音楽に対する思いやり、愛情、畏敬の念に溢れた、特別な作品だ。

—ボブ・モールド(ハスカー・ドゥ)

彼らが共有できる唯一の真の言語は〈音楽〉であるという状況下で、バンドという運命共同体に属する試練を乗り越えようと前進する姿が大好きだ。ダイナソーJr.は私たち全員にとって非常に大切であり、今もなお重要な存在だ。

—サーストン・ムーア(ソニック・ユース)

音楽のみで通じ合う、崩壊と再生のダイナソーJr.ドキュメンタリー

切な哀愁を帯びたメロディを殺伐とした轟音で包み込む、アメリカン・オルタナティブ・ロックの核をなしたバンド、ダイナソーJr.初のドキュメンタリー映画が遂に日本上陸。80年代 USハードコア／パンクの直撃を受けた面々によって1984年、マサチューセッツ州で結成されたバンドの歴史を、オリジナル・メンバーであるJ・マスキス(G./Vo.)、ルー・バーロウ(B.)、マーフ(D.)の三人の関係性にフォーカスしながら貴重な過去のフッテージを交えて描く、バンド自身が製作に関わったバンド公式の映画作品だ。

「本当はストラトキャスターが欲しかったが金が無く、仕方なくジャズマスターを買った」と語るJ・マスキスのギター音があまりに巨大だったため、リズム隊の二人は自らの音が聴こえるべくボリュームを上げるしかなかったというダイナソーJr.の凄まじい轟音は、ニルヴァーナやサウンドガーデン、パール・ジャムなどのグランジ・ムーブメントが勃発するより前にソニック・ユースに見出された先駆者であり、2ndアルバムはUSハードコア界の総統ともいうべきグレッグ・ギン(ブラック・フラッグ)運営のSSTレコードからリリースされた。巷に溢れたハードコア・サウンドとは一線を画す、暗く、ヘヴィでギターまみれな音の洪水でありながらもポップでキャッチーさを備え、そしてニール・ヤングやニック・ケイヴのとも云われる無気力極まりない唯一無二のボーカルが欧米の地下世界で絶大な支持を得た。しかし、ツアー中のある出来事をきっかけに三人の関係性は崩壊。ルーとマーフは次々と脱退、新メンバーを迎えて活動を継続したダイナソーJr.はJ・マスキスのソロ色を強めていった。

ダイナソーJr.の音楽は、売れようとするものでもなく、他人に聴いてもらおうとするものでもなく、ルー・バーロウは「どのぐらい客が集まるか、どれだけの人が聴いてくれるのかと考えたことがない。俺たちは客を襲うためにライブをやっていた」と語る。人気を獲得するためにギラギラするロックスター然としたバンドとは対極、音楽以外には一切関心がない三人のコミュニケーションは唯一、音楽を通じて図られる。そんな音楽だけで結ばれていたオリジナル・メンバー三人それぞれの正直な証言を引き出し、そして2005年以降再集結した現在までを、華美な演出を許さない愛情溢れる視点でまとめたのは、J・マスキスとは義理の親族にあたるフィリップ・ロッケンハイム。これまで100本以上のミュージックビデオを手掛け、ジム・ジャームッシュ監督作『ギミー・デンジャー』(2016)にも撮影素材が使われるなど長年音楽映像の世界で活躍するベルリン在住の監督だ。バンドの歴史と、再始動を果たした現在の姿をも捉える様子は映画『ピクシーズ/ラウド・クワイエット・ラウド』(2006)、そして被写体に寄り添う優しい眼差しは映画『ミニットメン:ウィ・ジャム・エコノ』(2005)を想起させる。80年代末から90年代にかけてオルタナティブ・ロックという巨大な渦の中心にいたダイナソーJr.の約30年にわたる心情と行まい、音楽をタイトに、丁寧に、誠実に描いた本作は、同時に人間の成長と友情の在り方も映し出すものとなった。

[2021年メルボルン国際映画祭]

[2021年モントリオール・ニューシネマ国際映画祭]
正式出品

ダイナソーJr./フリークシーン

監督:フィリップ・ロッケンハイム
製作:ステファン・ホール、アントワネット・コスター、フィリップ・ロッケンハイム
共同製作:ダイナソーJr.、J・マスキス
出演:ダイナソーJr.(J・マスキス、ルー・バーロウ、マーフ)
キム・ゴードン(ソニック・ユース)、ヘンリー・ロリンズ(ブラック・フラッグ)
ボブ・モールド(ハスカー・ドゥ)、サーストン・ムーア(ソニック・ユース)
フランク・ブラック(ピクシーズ)
ケヴィン・シールズ(マイ・ブラッディ・ヴァレンタイン)
ソニック・ブーム(スベースメン3)、マット・ディロン
2020年|82分|ドイツ=アメリカ合作|原題:FREAKSCENE the story of Dinosaur Jr.
© 2020 by Rapid Eye Movies/ Virus Films/ Dinosaur Jr. Inc.
キングレコード提供
ビズインターナショナル配給



3月25日(金) 無言の
ロードショー
全国共通特別鑑賞券発売中¥1,500(税込)
■キービジュアルステッカー付(数量限定)



地下鉄新宿三丁目駅B2出口より徒歩1分
シネマート新宿
03(5369)2831
<https://www.cinemart.co.jp/theater/shinjuku/>

心斎橋・アメリカ村ビッグステップ4F
シネマート心斎橋
06(6282)0815
<https://www.cinemart.co.jp/theater/shinsaibashi/>